

卒業50年の思い

卒業して半世紀、人生も終わりに近づき、省みる事が多いこの頃である。
卒業50年記念文提出のお誘いに乗って、稚拙な文章を書いてみた。

<久留米での思い出>

家近くの西鉄福岡天神駅から約40kmの距離にある宮の陣駅に降り立つと、筑後川が悠々と流れていた。堤防沿いの地道を歩いて2kmほどの所に、私達の母校はあった。(勿論今もある)。私は朝が苦手だったが、今思えば低血圧症だったのだろうか、時々電車に乗り遅れ遅刻も多かった。特に試験の時に遅刻は最悪だった。

私は暗記力が人より劣っていると高校時代から自覚していたので、語学が必要な文系より理系の方が良いと思い、また父が中学生の時に亡くなり経済的な理由もあって、進学先に国立の工業短大を選んだ。同じ高校からその学校に進学のは同学年では私一人であった。高校は旧女学校で女性が70%、文系が多く、西南学院などへの進学が多かったと思う。短大に行っても語学には苦しみ、必須のドイツ語の単位を落として追試を受けたが、それも殆ど出来ず、オマケでなんとか卒業させてもらった。

機械科は性分に合ったのか、学校は楽しく、不器用と記憶力の悪さは、成績には影響したが、授業や実習は好奇心を満たしてくれ、およそ1時間余の通学も、苦痛に思う事はなかった。

就職しても設計関係は秀才が揃い、競争が激しいのではと思い、卒業研究は機械工作を選んだ。就職の願書にも得意科目として機械工作と書いたように思う。が、就職してからの所属はそんな思い通りではなかった。



卒業研究・精密工作実習室の仲間

帰りの電車の待ち時間には、よく卓球をしたりして遊んで帰った。少し成長が遅れたタイプだったので、同級生とは少し感覚がずれていたかと思うが、対等に友達扱いしてくれて、今でも感謝している。

<就職そして会社生活42年>

現在と異なり高度成長期の当時は、就職するのは比較的容易であった。三男であったので就職先は何処でも良かったが、大きな会社より、競争の少ない中堅の所と思い、藤永田造船、帝人製機、大阪金属工業の三社を勝手に候補に決めた。情報の少ない時代だったので一枚のパンフレット見る位が精々の情報であったが、たまたま家の向いに代理店のあった会社になんとか親しみを感じ、試験を受けた。

就職の先生は近づき辛かったので、就職活動の途中経過を殆ど報告せず勝手に進め、就職が決まっても、直ぐには先生に連絡せず、後でえらく叱られた。今更反省しても遅いが、思えば全く

の世間知らず、礼儀知らずの子供だった。

就職した会社は大阪で、まず方言を笑われ戸惑い、言葉の壁で困った。次に困ったのは配属が機械とはあまり関係のない建材の開発部門に決まった事だった。そこで2年を過ごし、無謀にも、異動の希望を上司に申し出て、暫くの後、機械系の部門に転属になった。その部門で40歳位まで開発、その後、企画、購買などを経験して定年となった。就職して定年まで同じ工場内に勤めた珍しい人間となった。定年後は嘱託の身分となり、小さな会社に出向になったが、通勤時間が長く、賃金も安かったので、2年ほどで退職し、全くフリーとなり現在に至っている。

もちろん会社勤めの間、結婚して子供をさずかったり、家を買ったりの家庭生活は存在した。



同時入社の学生（大学・短大）は52人。
工場に配属になり、社員寮に入る。
社員寮の仲間と寮の部屋で撮ったもの。

<定年後と近況>

◎家族

三子



一子

本人

二子

子供は3人、孫は8人。
私に誇れるものがある
とすると、大家族だろ

◎趣味

定年後、何かをしなければと探した趣味は、パソコン、ダンス、歴史である。

- ・パソコンは退職後すぐクラブに入る。
- ・ダンスは歳を取っても出来る運動と思いサークルに入り、今年で7年目である。
楽しいが歳を取って始めたので、上達しない。
- ・歴史は退職後老人大学で考古学を学んだ。話を聞くのは面白いが、知識は身に付かず。



ダンスパーティで、フォーメーション（団体で踊る
お遊戯みたいなもの）に出演。
8組のすべてのカップルが揃わないと綺麗でない
ので、練習が大変。